

GE Healthcare



NanoVue

簡易マニュアル



GE imagination at work

71-2888-35

目次

安全上の注意	2
警告	2
開梱、設置、起動	2
キーボードおよびディスプレイ	3
オプションメニュー	4
ご使用前に	5
画面構成	6
概要 (NanoVue)	6
NanoVue Sample 測定操作方法	7
Life Science フォルダ	9
1. DNA/RNA 定量	10
2. CyDye 標識効率測定	12
3. タンパク質の定量	15
3-1: Protein UV (タンパク UV)、Protein A280 (タンパク A280)	15
3-2: BCA、Bradford (ブラッドフォード)、Lowry (ローリー)、Biuret (ビュレット) によるタンパク質定量	20
4. Utilities フォルダ	25
4-1: 時刻および日付の設定	26
4-2: 言語および数字のフォーマットの選択	26
4-3: プリンター/出力のオプション	26
4-4: 画面の表示項目や初期設定の選択	26
4-5: 画面のコントラストおよび明るさの調整	27
4-6: シリアル番号およびソフトウェアのバージョン情報	27
4-7: NanoVue 光路長のキャリブレーション	28
5. メンテナンス	29
5-1: 光路長の調整方法	29
5-2: サンプルプレートの交換の手順	30
5-3: ランプ交換の手順	30
5-4: プリンター用紙の交換手順	30
お願い【インストール前にお読み下さい】	31
1. データ転送プログラムソフト PRINT VIA COMPUTER のインストール	31
2. 最新情報	31
PVC 5.2.2.2 (E) (英文マニュアル v1.5) インストール簡易マニュアル	32
PVC 5.1.0.1 (E) (英文マニュアル v1.4) インストール簡易マニュアル	34
Print Via Computer (PVC) インストール簡易マニュアル	36
Print Via Computer (PVC) 使用方法	37

安全上の注意

本装置には多くの警告ラベルや記号がついています。これは危険性のある箇所を明示し、特別な注意が必要であることを示しています。操作を始める前に、それらの記号とその意味をよく理解してください。

警告 (添付文書を参照ください)

背景が黄色で記号とその周辺枠は黒



開梱、設置、起動

輸送中に装置の損傷が起きた形跡がないかどうか確認してください。万一何らかの損傷が見つかった場合には、すぐに弊社販売代理店に連絡してください。

据付場所が安全に操作ができる環境かどうか確認してください。
室内でのみ使用してください。

使用温度：5～35℃


使用中、室温変化が1時間当たり4℃以上変化する環境で使用される場合には、装置の電源をいれて2～3時間後に再キャリブレーション(電源を一度切り、再度入れる操作)が必要となる場合があります。

最大許容相対湿度：31℃までは80%以下。ただし31℃以上では40℃で50%まで直線的に減少します。

装置は必ず実験室の実験台やテーブルのような堅くて平らで、かつ装置の重量(4.5 kg)を支えられるような台の上に設置してください。装置の周囲は空気が循環できるようにしてください。

電源の接続には必ず付属のACアダプターを使用してください。本電源アダプターは90～240 V、50～60 Hzの電源でご使用できます。アダプターと電源コンセントとは付属の電源コードで接続してください。

開梱直後に2～3時間その場に放置してから電源をいれることで、装置内結露によるキャリブレーションの失敗が防げます。20℃以下の低温で使用する場合に特に有効です。

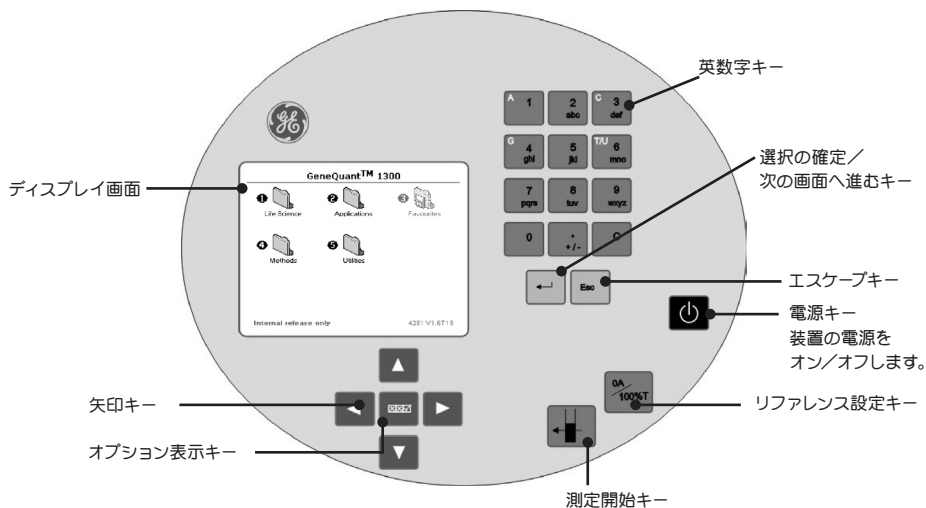
電源と接続後、キーパッドの電源キー()を押します。数秒間キャリブレーションを自動実行した後にメインメニューが表示されます。この状態から測定を開始することができます。

ご使用前に本ユーザーマニュアルをよくお読みください。

本装置を定められた以外の方法、または安全な操作に不適当でない設置環境で使用した場合には、装置の安全機構が損なわれる可能性があるため、装置の保証をしかねることがあります。

キーボードおよびディスプレイ

液晶ディスプレイに表示されるメニューをキーボードの英数字キーと矢印キーで操作します。キーボードは耐摩耗性、防水性です。





■ 矢印キー：(◀▶▲▼) ディスプレイ上での操作を行う場合や、使用中（強調表示されます）のオプションから必要な設定を選択するときを使う、4つの矢印キーです。


■ オプション表示キー：

実行中のアプリケーションモードで使用できるオプションメニューを表示させます。
【次に説明してあるオプションは全てのアプリケーションに共通のもです。特定のアプリケーションのみで使えるオプションについては、各アプリケーションの項で説明します。】

■ 英数字キー：パラメーターを入力する場合や、テキスト入力が必要な場合に使用します。キーボード上の適切なキーをくり返して押し、小文字、数字、大文字の順で切り替えます（例えば言語モード”English”で数字キー2を続けて押すと、abc → 2 → ABCの順で表示が切り替わります）。文字を削除するにはCキーを、スペース入力には1キーを使います（1 → _ → 1 → _の順で切り替わります）。次の文字を入力するには、別のキーを押してください。同じキーに割り当てられている文字や数字を連続して入力するには、入力後1秒以上待ってから英数字キーを押すとカーソルが一つ移動し、次の文字が入力できます。

■ エスケープキー:  選択を解除して、1つ前のフォルダメニューに戻る場合に使用します。

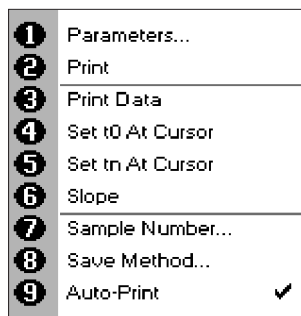
■ リファレンス設定 (0A/100%T) キー:  選択モードで使用する波長でリファレンスを測定します。
NanoVue のスキャンモードの場合は、リファレンスのスキャンを実行します。

■ 選択の確定/次の画面へ進むキー:  選択項目を入力、または確定します。

■ 測定開始キー:  測定を実行します。

オプションメニュー

(オプション表示キー  を押すと表示されます。キーパッドの数字キーで選択します。)



1. 各実験のパラメーター設定画面を表示します。
2. 結果を印刷します。
- 3,4,5,6 アプリケーション毎に機能が異なります。詳細は各アプリケーションの項目で説明します。
7. 最初のサンプル番号を設定できます。
8. メソッド名とフォルダ名を指定して、パラメーターをメソッドとして保存します。
9. オートプリントのオン/オフが切り替わります。初期設定はオフですが、Utilities フォルダのプリンター設定で変更することが可能です。(p.26 参照)

オプションメニューから戻るには  を押すか、または時間をおくと自動的に戻ります。

ご使用の前に

- (1) 画面表示を日本語に設定します。

納品時は、言語が英語になっています。これを日本語に直すには、「5. Utility」から「2. Regional」を選択し、下記の画面を呼び出します。

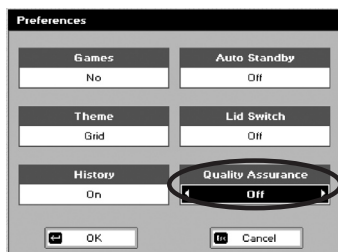


◀▶ キーで Language から「Japanese」を選択します。

◀ キーで決定すると、自動的に初期画面に戻り、日本語でソフトが立ち上がります。

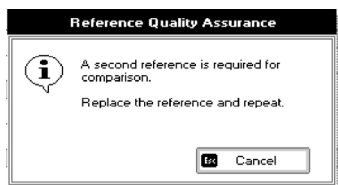
- (2) リファレンスの測定回数を設定します。

「5. Utility (ユーティリティ)」から「4. Preferences (プリファレンス)」を選択し、下記の画面を呼び出します。



Quality Assurance を「On (オン)」にすると、毎回リファレンス測定を2度行う設定になります。2つのリファレンス値に矛盾があるとリファレンス測定のやり直しが指示されます。これによりリファレンスデータの信頼度が上がります。(リファレンス測定にかかる時間は長くなります)

Note: 通常、リファレンス測定は1回で行います (「Off」を選択)。データの信頼性を上げたい場合は、このモードを「On」にしてください。



Quality Assurance が「On」の場合の測定方法

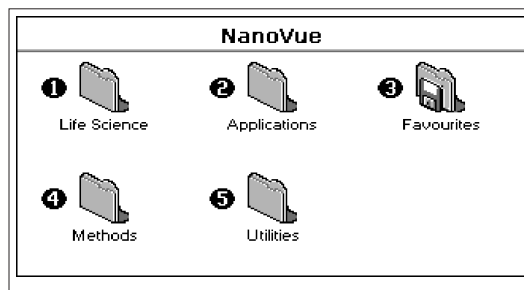
Quality Assurance を「On」にして2回リファレンス測定を行う場合、リファレンス溶液は3～5 µl 用いて下さい。このモードではリファレンスの値を厳しく判定するため、2 µl 以下の場合はパスしない場合があります。

1回目のリファレンス測定を行った後、下記のメッセージが画面に表示されますので、サンプルステージ上のリファレンス溶液をキムワイプで拭き取り、再度リファレンス溶液を添加して下さい。






蓋を閉め、 ボタンを押して2回目のリファレンス測定を行います。

画面構成

ユーザーインターフェースは、装置の電源投入時の画面に表示されるフォルダを基本に構成されています。各フォルダに付いた番号と同じ番号の英数字キーを押すとそのフォルダが開きます。



概要 (NanoVue)

機能	キーボード番号	機能の内容
 Life Science	1	核酸定量、タンパク質量
 Applications	2	吸光度、濃度、波長スキャン、カインेटィクス、標準曲線、多波長測定、および吸光度比測定
 Favourites	3	お気に入りとして頻繁に使用するユーザーメソッドの保存フォルダ (9 個まで保存可能)
 Methods	4	ユーザーメソッドの保存フォルダ (9 個のサブフォルダから構成。各サブフォルダにはメソッドを 9 個ずつ保存可能)
 Utilities	5	日付、時刻、言語などの設定およびゲーム

NanoVue sample 測定操作方法

リファレンスおよびサンプルの測定方法は下記の通りです。

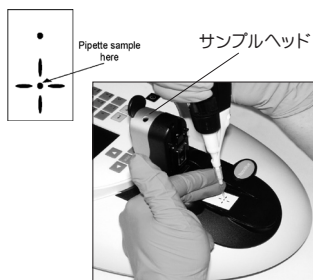


図 1

ステップ 1

サンプル測定部のサンプルヘッドを持ち上げます。

ステップ 2

リファレンス水溶液 2 μ l を、十文字の窓の中央丸の上にアプライします。(図 1)


ステップ 3

液が表面張力で丸くなっていることを確認し、サンプルヘッドを静かに下ろします。

Note : サンプルヘッドを強く押し込み過ぎないように、ご注意ください

>Lid Switch がオンの場合 (8 ページ参照) 自動的に測定が開始されます。ステップ 5 へ進んでください。

ステップ 4

リファレンス測定キー  を押します。

ステップ 5

リファレンスがとれると画面にゼロが表示されます。

>Quality Assurance がオンの場合 (7 ページ参照) には、2 度目の測定を促すメッセージ、2 度目の測定に問題があればエラーメッセージが表示されます。

ステップ 6

サンプルヘッドを持ち上げ、キムワイブでサンプル測定部の上下に付着している液体を完全に拭き取ってください。奥から手前に向かって拭き取り、奥にある穴には汚れが決して残らないようにします (図 2、3)。

※疎水性コーティングを施してあるため、キムワイブを軽く押し当ててぬぐうだけで拭き取れます。強くこすり取る必要はありません。

ステップ 7

サンプル測定部分の取っ手を持ち上げたまま、サンプル 2 μ l を十文字の窓の中央丸の上にアプライします。

ステップ 8

液が表面張力で丸くなっていることを確認し、サンプルヘッドを静かに下ろします。

>Lid Switch がオンの場合自動的に測定が開始されます。ステップ 10 へ進んでください。

ステップ 9

測定開始キー  を押します。

ステップ 10

4.5 秒ほどキセンフラッシュランプのチリチリする音がした後、画面に結果が表示されます。Auto-print がオンならば、予め設定した出力先へデータが出力されます (内蔵プリンター、USB ポート、Bluetooth のいずれかへ)。

ステップ 11

引き続きサンプル測定する場合にはサンプル測定部のサンプルヘッドを引き上げて、キムワイブでサンプル測定部の上下に付着している液体を完全に拭き取ってください (ステップ 6 と同様)。

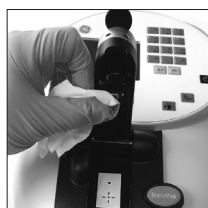


図 2

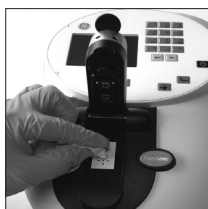


図 3

ステップ 12

次のサンプルをアプライして測定します (ステップ 7 ~ 10 以下繰り返し)

ステップ 13

測定終了後は、超純水で濡らしたキムワイプで測定部の上下を拭き、乾いたキムワイプで超純水を拭き取ってください (センサー部分にサンプルが残ったまま放置すると、正確な測定ができなくなります)。


** Lid Switch がオンの設定でリファレンスを途中で取り直したい場合には、サンプルヘッドを持ち上げた状態でパネルのリファレンス測定キーを押してください。

> 画面から数字が消えます。この状態からリファレンス測定の手順に戻ります。

** 測定開始キーを押すと、Lid Switch の設定に関わらずキーを押した状態でサンプル測定をします。

【便利な機能】

- サンプルヘッドを下げると測定を自動開始する Auto-Read モードがあります。

Utility フォルダの中にある Preferences フォルダで、Lid Switch のパラメーターをオン (On) にすると、 を押さなくてもサンプルヘッドを下げるだけで自動的に測定できます。

- 測定画面で  を押して表示されるオプションメニューは便利です。

- ◆ アプリケーションを終了することなく設定画面に戻ることができます。
- ◆ 測定結果の印刷 / 出力ができます。
- ◆ 設定したパラメーターをユーザーメソッドとして保存できます。保存したユーザーメソッドは Methods フォルダあるいは Favorites フォルダから呼出すことが可能です。
- ◆ 測定結果の自動印刷のオン / オフを切替えられます。初期設定で変更する場合には本マニュアル p.26 の「プリンター / 出力のオプション」を見ておこなってください。

- カタカナでの日本語表示が可能です。Utility フォルダには言語表示の切替メニューがあります。

クニベツ (Regional) フォルダのパラメーターをニホンゴ (Japanese) にして  を押すと日本語表示で起動します。同様にエイゴ (English) にして  を押すと英語表示で起動します。

- 測定結果を自動印刷するには Utility フォルダの Printer 設定でできます。

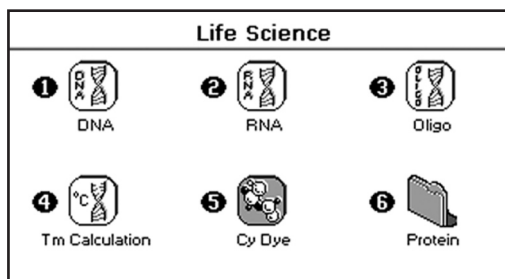
Utility フォルダ中にある Printer フォルダで、Auto-Print をオン (On) にすると測定と同時に印刷出力します。同じフォルダの Printer のパラメーター設定によって、内蔵プリンター (Built-in)、USB ポート (Computer<USB>) へ出力先が切り替わります。

- Quality Assurance 機能で、リファレンス測定の精度が上がります。

Utility フォルダ中にある Preferences フォルダで、Quality Assurance をオン (On) にするとリファレンス測定を 2 度行うようになります。2 度の測定でリファレンスの値に矛盾があるとリファレンス測定のやり直しが指示されます。これによりリファレンスデータの信頼度が上がります。(リファレンス測定にかかる時間が長くなります。)

Life Science フォルダ

当フォルダには、以下に示す 6 つのアプリケーションを実行するためのサブフォルダが含まれています。

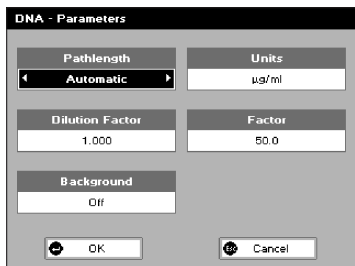


アプリケーション	キーボード番号	機能
DNA	1	DNA サンプルの濃度測定と純度チェック
RNA	2	RNA サンプルの濃度測定と純度チェック
Oligo	3	オリゴヌクレオチドサンプルの濃度測定と純度チェック
Tm Calculation	4	DNA の Tm 値計算 (理論値と簡易測定値表示)
CyDye	5	蛍光標識 cDNA プローブの標識効率測定
Protein	6	タンパク質定量

Life Science フォルダ内のアプリケーションでは、吸光度が光路長 10 mm で測定した場合の数値に自動的に変換されています。

1. DNA/RNA 定量

- 波長 230 nm、260 nm、280 nm、320 nm (オプション) での吸光度と波長 260 nm と 280 nm の吸光度比 (AbS_{260}/AbS_{280} : タンパク質混入の純度指標、1.8 以上が高純度)、波長 260 nm と 230 nm の吸光度比 (AbS_{260}/AbS_{230} : EDTA、GTC などの塩類混入の純度指標、2.0 以上が高純度)、質量換算ファクター (DNA 定量時 : 50、RNA 定量時 : 40) から計算した濃度を表示します。
- 波長 220 ~ 320 nm 範囲での波長スキャンした吸光度グラフをオプション表示することが可能です。



ステップ 1

メニュー画面で測定モードを選択します。

- DNA 定量 → 1 キー
- RNA 定量 → 2 キー

ステップ 2


◀▶ キーを使って光路長を選択します。0.2 mm、0.5 mm、および Automatic (Auto) のいずれかを選択します。薄いサンプルには 0.5 mm、濃いサンプルには 0.2 mm を選択しますが、濃度が不明のサンプルの場合には「Automatic (Auto)」を選択して下さい。測定値によって自動的に光路長が選択されます。

選択したら▼キーを押します。

ステップ 3 (希釈係数が既知の場合)

キーボードの英数字キーで希釈係数を直接入力します。数値の範囲は 1.00 ~ 9999 です。最後の文字をバックスペースで取り消すには C キーを押します。

ステップ 3 (希釈係数を計算する場合)

 を押して希釈係数の計算画面を表示させます (左図の 2 番目に示した画面です)。キーボードの英数字キーでサンプル容量を Volume (ポリウム) に入力します。入力後▼キーを押し、Diluent (キジャク) にカーソルを移動させ、キーボードの英数字キーで希釈液の容量を入力します。入力可能な数値の範囲はどちらも 0.01 ~ 9999 です (例えば、サンプル 1 µl にバッファー 99 µl を加えて希釈した場合、Volume に 1、Diluent に 99 と入力します)。

← を押すと、測定結果画面に切り替わり、測定が開始できます。上記の例では、Dilution Factor (キジャクリツ) が 100 と表示されます。

【注意】

入力した二つの数値が決められた範囲内でも、計算値 1.00 ~ 9999 の範囲外の場合はエラー音が鳴り、先に進めません。この場合には入力した数値を適宜修正してください。

← でなく **Esc** を押すと希釈係数が計算され、パラメーター画面に戻ります。

ステップ 4

320 nm でのバックグラウンド補正を行うかどうかを選択します。

◀▶ キーで補正の有無を選択し、▼キーで決定します。

ステップ 5


◀▶ キーを使って、濃度単位を選択します。µg/ml、ng/µl、µg/µl のうちから選択します。初期値は µg/ml です。測定単位の選択に応じて次の Factor (ファクター) の数値が変化します。選択したら▼キーを押します。

ステップ 6

キーパッドの英数字キーで、吸光度から濃度に換算するファクターを入力します。DNA 定量での初期値は 50、RNA 定量での初期値は 40 です。入力可能な数値の範囲は 0.01 ~ 9999 です。

DNA		
A230	0,089 A	Sample
A260	0,258 A	1
A280	0,187 A	
		Concentration
A260/A280		12,9
1,54		
A260/A230		Units
2,90		µg/ml

ステップ 7


 を押すと測定結果画面に切り替わり、測定が開始できます。ここで **Eco** を押すと、測定せずにメニュー画面へ戻ります。

測定結果画面での操作

ステップ 8


リファレンスをセットして、 を押します。この値は変更するまで全ての測定に適用されます。

ステップ 9

サンプルをセットして  を押すと、230 nm、260 nm、280 nm の波長での測定が実行され、結果が表示されます。バックグラウンド補正ありの場合は 320 nm の波長での測定が追加表示されます。それと同時に、2 つの吸光度比 (Abs_{260}/Abs_{280} 、 Abs_{260}/Abs_{230}) と、波長 260 nm の吸光度から計算された濃度が表示されます。


全てのサンプルについてステップ 9 を繰り返し行います。

DNA モード/RNA モードを終了するには **Eco** を押します。

 を押すと、以下のようなオプションメニューを表示させることができます。

オプションメニュー

(キーパッドの数字キーで選択します)

1. パラメーター設定画面に戻ります (p.9 のステップ 1 実行に相当)。
2. 結果を印刷します。
3. グラフ表示のオン/オフが切り替わります。グラフには 220 ~ 320 nm の範囲でのスキャンデータがプロットされ、230 nm、260 nm、280 nm および 320 nm (バックグラウンド補正を行った場合) の位置にカーソルが表示されます。
7. Sample Number: サンプル番号 (1 ずつ加算されます) の初期値を自由に設定できます。
8. Save Method: 英数字キーでメソッドの名前を入力し、 を押して保存します。
9. Auto-Print: オートプリントのオン/オフが切り替わります。

オプションメニューから戻るには **Eco** を押します。

(一定時間なにもせずにいると、自動的に戻ります。)

1	Parameters...
2	Print
3	Graph
7	Sample Number...
8	Save Method...
9	Auto-Print <input checked="" type="checkbox"/>

2. CyDye 標識効率測定

このモードでは、DNA プローブの蛍光標識効率を測定できます。

Cy Dye - Parameters	
Dye Name	Pathlength
Cy3	Automatic
Wavelength	Background
550 nm	On
Coefficient	
0.150	
Next	Cancel

ステップ 1

メニュー画面で CyDye 測定モードに入ります。

ステップ 2

英数字キーで、色素の名前を入力します。

ステップ 3

英数字キーで、色素の最大吸収波長を入力します。主な蛍光色素の吸収波長は下記の通りです。

Cy3...550 nm

Cy5...649 nm

Fluorescein...495 nm

ステップ 4

色素の Coefficient (吸収係数、 $(\mu\text{L mol}^{-1} \cdot \text{cm}^{-1})$) を、英数字キーで入力します。

ステップ 5

◀▶ キーを使って光路長を選択します。0.2 mm、0.5 mm、および Automatic (Auto) のいずれかを選択します。濃度の薄いサンプルには 0.5mm、濃いサンプルには 0.2 mm を選択しますが、濃度が不明のサンプルの場合には「Automatic(Auto)」を選択して下さい。測定値によって自動的に光路長が選択されます。

ステップ 6

バックグラウンド補正を行うかどうかを選択します。補正に利用する波長はステップ 8 で設定します。

◀▶ キーで補正の有無を選択し、▼キーで決定します。

ステップ 7

← を押して、次の設定画面に進みます。

Cy Dye - Settings	
Dilution Factor	Start RNA
<input checked="" type="checkbox"/> 1.000	1000
Factor	Background
50.0	430 nm
Volume	
50.0	
OK	Back

ステップ 8

各項目の設定を行います。

• Dilution Factor (キジャクリツ) ... 希釈倍率を入力します。希釈倍率を入力する時は、 を押して設定して下さい。

• Factor...DNA の濃度を測定するためのファクターです。DNA の場合は変更する必要はありません。RNA の場合は 40、オリゴの場合は 33 を入力します。

• Volume... 用いた溶液の量 (μl) を入力します。

• Start RNA... 最初に用いた RNA の量 (ng) を入力します。

• Background... バックグラウンド補正を行う場合には、バックグラウンドとする波長を入力します。最適な波長は色素によって異なり、Cy3 や Cy5 では 430 nm、Fluorescein の場合は 400 nm に設定します。


ステップ 9

← を押すと、測定画面に進みます。


測定画面での操作

Cy Dye	
A230	1.51 A
A260	2.39 A
A280	0.95 A
Adye	2.66 A
Abck	1.21 A
A260/A230	3.882
A260/A280	-4.504
Adye/A260	1.223
Sample	1
Concentration	59.0
Units	ng/ul

ステップ 10

リファレンスをセットして、 を押します。このリファレンス値は測定を終了する、あるいは途中で別のリファレンスに変更するまで全ての測定に適用されます。

ステップ 11

サンプルをセットして  を押すと、230 nm、260 nm、280 nm、および色素の波長での測定が実行され、結果が表示されます。バックグラウンド補正ありの場合は設定したバックグラウンドの波長での測定が追加表示されます。それと同時に、3 つの吸光度比 (A260/A280、A260/A230、Adye/A260) と、波長 260 nm の吸光度から計算された DNA 濃度が表示されます。

色素の標識効率について結果を表示させるには、 を押します。

左記のメニューが出ますので、英数字キーの 4 を押します。

1	Parameters...
2	Print
3	Graph
4	Results <input checked="" type="checkbox"/>
7	Sample Number...
8	Save Method...
9	Auto-Print

Cy Dye	
Total DNA	2350
DNA Yield	295
Nucleotides	18.8
Dye Per Probe	9.667
Sample	1
Concentration	59.0
Units	ng/ul

この画面で、結果が確認できます。

各項目の内容や単位は次の通りです。

- Total DNA... トータル cDNA 量 (ng)
- DNA Yield... Start RNA 量に対する cDNA 回収率 (Total cDNA/start RNA×100) (%)
- Nucleotides... 色素あたりの Nucleotides 数 (色素の標識間隔)
- Dye Per Probe... プローブ溶液の容量あたりの色素 (pmol/ul)

オプションメニュー (キーボードの数字キーで選択します)

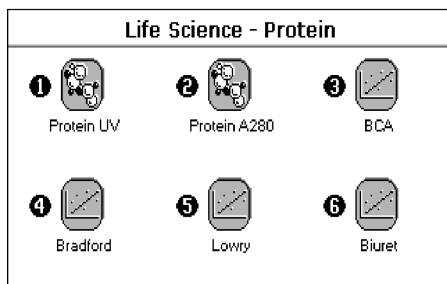
1. パラメーター設定画面に戻ります。
2. 結果を印刷します。
3. グラフ表示のオン/オフが切り替わります。グラフにはキャリブレーションで測定した標準曲線が表示され、直前に測定したサンプルの値がプロットされています。
4. CyDye の標識効率などの結果を表示します。
7. Sample Number: サンプル番号 (1 ずつ加算されます) の初期値を自由に設定できます。
8. Save Method: 英数字キーでメソッドの名前を入力し、を押して保存します。
9. Auto-Print: オートプリントのオン/オフが切り替わります。オプションメニューから戻るには を押します。

(一定時間なにもせずにいると、自動的に戻ります)

CyDye 標識効率測定モードを抜けるには、 **Esc** を押します。

3. タンパク質の定量

タンパク質の定量には 5 つのメソッドが用意されています。メニュー画面で 7 キーを押して、Protein フォルダを開きます。タンパク質定量のメソッドは、Protein UV (タンパク UV)、BCA、Bradford (ブラッドフォード)、Lowry (ローリー)、Biuret (ビュレット) の 5 つです。



各モードの特徴は次の通りです。

- ・タンパク UV: Christian と Warburg の式に従ってタンパク質量を測定します。
- ・タンパク A 280: 280 nm の吸光度を用いた様々な方法が選べます。BSA、Ig など の吸光係数を用いた定量のほか、目的タンパク質の吸光係数や分子量を用いて定量することもできます。
- ・BCA タンパクアッセイ、ブラッドフォード、ローリー、ビュレット: それぞれの定量方法に応じた専用のモードです。タンパク質サンプルのほか、検量線を描くための標準サンプルが必要です。

3-1: Protein UV (タンパク UV)、Protein A 280 (タンパク A 280)

タンパク質の波長 280 nm における吸光度と、波長 260 nm の吸光度を Christian と Warburg の式 (Biochemische Zeitung 310, 384 (1941)) にあてはめて計算します。

$$\text{タンパク質濃度 (mg/ml)} = 1.55 \times \text{Abs}_{280} - 0.76 \times \text{Abs}_{260} \quad \dots \text{式 1}$$

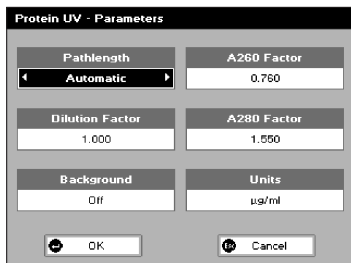
$$\text{または、タンパク質濃度} = (\text{ファクター 1} \times \text{Abs}_{280}) - (\text{ファクター 2} \times \text{Abs}_{260})$$

この式は、対応するファクターの値を知ることにより、他のタンパク質にも適用することができます。ファクターの値の変更や、320 nm におけるバックグラウンド補正も可能です。

測定する個々のタンパク質に対して計算式をカスタマイズするには、濃度既知のタンパク質溶液の Abs_{260} と Abs_{280} を測定し、連立方程式から 2 つのファクターの値を求める必要があります。ファクター 2 が負の値となった場合は、 Abs_{260} はタンパク質濃度測定値に影響しないと考えられるため、ファクター 2 の値を 0 とします。

280 nm の吸光度の値だけから直接タンパク質濃度を求める場合には、ファクター 2 の値は 0.00 となり、ファクター 1 の値は測定するタンパク質の吸光係数に基づく値となります。BSA (ウシ血清アルブミン) を標準サンプルとして用いる場合には、ファクター 1=1.115 とすると、タンパク質濃度が 0 ~ 0.8 mg/ml の領域で直線的な関係が得られます。

$$\text{タンパク質濃度 (mg/ml)} = 1.115 \times \text{Abs}_{280}$$



Protein UV の手順

ステップ 1

1 キーを押して Protein UV (タンパク UV) モードを選択します。

ステップ 2

◀▶ キーを使って光路長を選択します。0.2 mm、0.5 mm、および Automatic (Auto) のいずれかを選択します。薄いサンプルには 0.5 mm、濃いサンプルには 0.2 mm を選択しますが、濃度が不明のサンプルの場合には「Automatic (Auto)」を選択して下さい。測定値によって自動的に光路長が選択されます。

選択したら▼キーを押します。

ステップ 3 (希釈係数が既知の場合)

キーボードの英数字キーで希釈係数を直接入力します。数値の範囲は 1.00 ~ 9999 です。最後の文字をバックスペースで取り消すには C キーを押します。または

ステップ 3 (希釈係数を計算する場合)

☒☒ を押して希釈係数の計算画面を表示させます (左図の 2 番目に示した画面です)。キーボードの英数字キーでサンプル容量を Volume (ボリューム) に入力します。入力後▼キーを押し、Diluent (キシヤク) にカーソルを移動します。キーボードの英数字キーで希釈液の容量を入力します。入力可能な数値の範囲はどちらも 0.01 ~ 9999 です (例えば、サンプル 1 µl にバッファー 99 µl を加えて希釈した場合、Volume に 1、Diluent に 99 と入力します)。

← を押すと、測定結果画面に切り替わり、測定が開始できます。上記の例では、Dilution Factor (キシヤクリツ) が 100 と表示されます。

【注意】
入力した二つの数値が決められた範囲内でも、計算値 1.00 ~ 9999 の範囲外の場合はエラー音が鳴り、先に進めません。この場合には入力した数値を適宜修正してください。

← でなく Esc を押すと、希釈係数が計算されずにパラメーター画面に戻ります。

ステップ 4

◀▶ キーで、320 nm でのバックグラウンド補正を行うかどうかを選択します。

選択したら▼キーを押します。

ステップ 5

キーボードの英数字キーで 260 nm での吸光度を入力します (上記の式 1) を参考にしてください。初期値は 0.76 で、数値の範囲は 0 ~ 9999 です。

入力したら▼キーを押します。

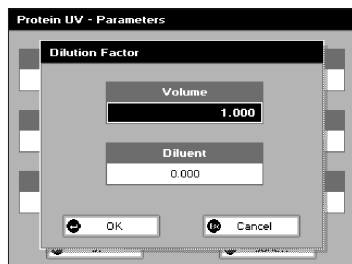
ステップ 6

キーボードの英数字キーで 280 nm での吸光度を入力します (上記の式 1) を参考にしてください。初期値は 1.55 で、数値の範囲は 0 ~ 9999 です。

入力したら▼キーを押します。

ステップ 7

◀▶ キーを使って、測定単位を選択します。µg / ml、ng / µl、µg / µl のうちから選択します。



ステップ 8


 を押すと測定結果画面が表示されます。

ここで **Eso** を押すと、測定せずにメニュー画面へ戻ります。


Protein UV	
A260 0,258 A	Sample 1
A280 0,167 A	Result 0,06
Units µg/ml	

測定結果画面での操作

ステップ 9


リファレンスをセットして、 を押します。この値は変更するまで全ての測定に適用されます。

ステップ 10

サンプルをセットして  を押すと、波長 260 nm、280 nm での測定が実行され、吸光度とタンパク質濃度が表示されます。バックグラウンド補正ありの場合は 320 nm の波長での測定が追加表示され、バックグラウンド補正されたタンパク質濃度が表示されます。

全てのサンプルについてステップ 10 をくり返し行います。


Protein UV モードを終了するには **Eso** を押します。

 を押すと、以下のようなオプションメニューを表示させることができます。

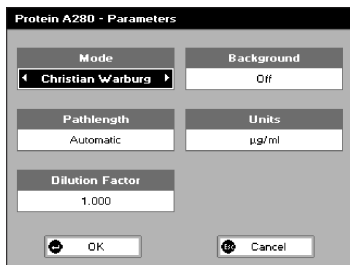
オプションメニュー

(キーパッドの数字キーで選択します)

1	Parameters...
2	Print
3	Graph
7	Sample Number...
8	Save Method...
9	Auto-Print <input checked="" type="checkbox"/>

1. パラメーター設定画面に戻ります (p.12 のステップ 1 実行に相当)。
2. 結果を印刷します。
3. グラフ表示のオン/オフが切り替わります。グラフには 230 ~ 330 nm の範囲でのスキャンデータがプロットされ、230 nm、260 nm、280 nm および 320 nm (バックグラウンド補正を行った場合) の位置にカーソルが表示されます。
7. Sample Number: サンプル番号 (1 ずつ加算されます) の初期値を自由に設定できます。
8. Save Method: 英数字キーでメソッドの名前を入力し、 を押して保存します。
9. Auto-Print: オートプリントのオン/オフが切り替わります。

オプションメニューから戻るには **Eso** を押します。
(一定時間なにもせずにいると、自動的に戻ります。)



Protein A 280 の手順

ステップ 1

1 キーを押して Protein UV (タンパク UV) モードを選択します。

ステップ 2


◀▶ キーを使って光路長を選択します。0.2 mm、0.5 mm、および Automatic (Auto) のいずれかを選択します。薄いサンプルには 0.5 mm、濃いサンプルには 0.2 mm を選択しますが、濃度が不明のサンプルの場合には「Automatic (Auto)」を選択して下さい。測定値によって自動的に光路長が選択されます。

選択したら▼キーを押します。

ステップ 3 (希釈係数が既知の場合)

キーパッドの英数字キーで希釈係数を直接入力します。数値の範囲は 1.00 ~ 9999 です。最後の文字をバックスペースで取り消すには C キーを押します。または

ステップ 3 (希釈係数を計算する場合)

 を押して希釈係数の計算画面を表示させます (左図の 2 番目にした画面です)。キーパッドの英数字キーでサンプル容量を Volume (ボリューム) に入力します。入力後▼キーを押し、Diluent (キジャク) にカーソルを移動します。キーパッドの英数字キーで希釈液の容量を入力します。入力可能な数値の範囲はどちらも 0.01 ~ 9999 です (例えば、サンプル 1 μl にバッファー 99 μl を加えて希釈した場合、Volume に 1、Diluent に 99 と入力します)。

← を押すと、測定結果画面に切り替わり、測定が開始できます。上記の例では、Dilution Factor (キジャクリツ) が 100 と表示されます。

【注意】

入力した二つの数値が決められた範囲内でも、計算値 1.00 ~ 9999 の範囲外の場合はエラー音が鳴り、先に進めません。この場合には入力した数値を適宜修正してください。

← でなく **Esc** を押すと、希釈係数が計算されずにパラメーター画面に戻ります。

ステップ 4

◀▶ キーで、320 nm でのバックグラウンド補正を行うかどうかを選択します。

選択したら▼キーを押します。

ステップ 5

Christian Warburg、BSA、IgG、Lysozyme、Molarextinction、Mass Extinction、E 1% のいずれかのモードを選択します。

各モードの定量原理は以下の通りです。

- Christian Warburg: Warburg と Christian が導き出した方程式をもとに、タンパク質量を算出します。

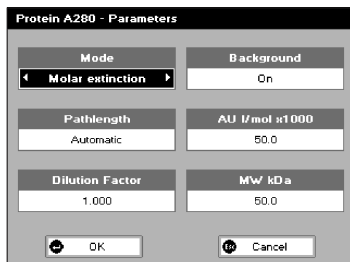
$$\text{タンパク質濃度 (mg/ml)} = 1.55 \times \text{Abs}_{280} - \text{Abs}_{260}$$

- BSA: 10 mg/ml BSA の吸光度を元にタンパク質量を算出します。

$$\text{タンパク質濃度 (mg/ml)} = 1.115 \times \text{Abs}_{280}$$

- IgG: 10 mg/ml IgG の吸光度を元にタンパク質量を算出します。

- Lysozyme: 10 mg/ml Lysozyme の吸光度を元にタンパク質量を算出します。



- Molar extinction: モル吸光係数 ($M^{-1} cm^{-1}$) および分子量からタンパク質量を算出します。
- Mass Extinction: 吸光係数 ($L g^{-1} cm^{-1}$) および分子量からタンパク質量を算出します。
- E 1%...10 mg/ml (1 %) の溶液に対する吸光係数 ($L g^{-1} cm^{-1}$) からタンパク質量を算出します。

ステップ 6

← を押すと測定結果画面が表示されます。

ここで **Eso** を押すと、測定せずにメニュー画面へ戻ります。

測定結果画面での操作

ステップ 7

リファレンスをセットして、**DA 100%** を押します。この値は変更するまで全ての測定に適用されます。

ステップ 8

サンプルをセットして、**←** を押すと、波長 260 nm、280 nm での測定が実行され、吸光度とタンパク質濃度が表示されます。バックグラウンド補正ありの場合は 320 nm の波長での測定が追加表示され、バックグラウンド補正されたタンパク質濃度が表示されます。

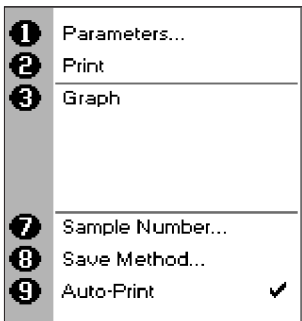
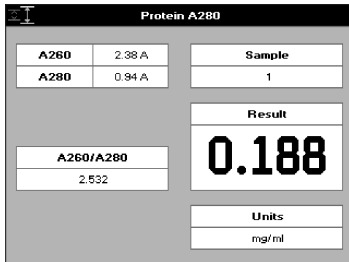
全てのサンプルについてステップ 8 をくり返し行います。

Protein UV モードを終了するには **Eso** を押します。

☰ を押すと、以下のようなオプションメニューを表示させることができます。

オプションメニュー

(キーパッドの数字キーで選択します)



1. パラメーター設定画面に戻ります (p.18 のステップ 1 実行に相当)。
2. 結果を印刷します。
3. グラフ表示のオン/オフが切り替わります。グラフには 230 ~ 330 nm の範囲でのスキャンデータがプロットされ、230 nm、260 nm、280 nm および 320 nm (バックグラウンド補正を行った場合) の位置にカーソルが表示されます。
7. Sample Number: サンプル番号 (1 ずつ加算されます) の初期値を自由に設定できます。
8. Save Method: 英数字キーでメソッドの名前を入力し、← を押して保存します。
9. Auto-Print: オートプリントのオン/オフが切り替わります。

オプションメニューから戻るには **Eso** を押します。
(一定時間なにもせずにいると、自動的に戻ります。)

2-2 : BCA、Bradford (ブラッドフォード)、Lowry (ローリー)、Biuret (ビュレット) によるタンパク質量

2-1 で説明した Protein UV (タンパク UV) のほかに次の 4 種類のメソッドでタンパク質量を行います。

● BCA

2 価銅イオンとペプチド結合との反応を利用した定量法です。還元されて生成する 1 価銅イオンにピシニコニン酸 (BCA) を加えて反応させ、その 562 nm の吸収ピークを測定します。細胞壁破壊に用いる界面活性剤にあまり影響されずに測定できます。

● Bradford (ブラッドフォード)

濃度未知のタンパク質にクマシーブリリアントブルー色素を結合させてその 595 nm の吸収を測定し、濃度既知の標準タンパク質 (通常は BSA (ウシ血清アルブミン)) の値と比較してタンパク質を定量する方法です。

● Lowry (ローリー)

濃度未知のタンパク質のチロシンなどの残基とフェノール試薬 (Folin-Ciocalteu phenol) とを反応させてその 750 nm の吸収を測定し、その値を標準タンパク質 (通常は BSA (ウシ血清アルブミン)) で作成した検量線と比較してタンパク質を定量する方法です。

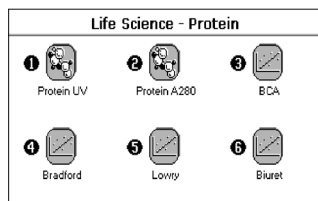
● Biuret (ビュレット)

アルカリ性溶液中で 2 価銅イオンとペプチド結合とを反応させ、その生成錯体の 546 nm の吸収を測定することでタンパク質を定量する方法です。血清や尿中のタンパク質の定量に利用されています。

以上の 4 つのメソッドによるタンパク質量はほぼ同じ操作で行うことができます。

表 各メソッドによる測定範囲 (BSA を測定した場合)

	NanoVue	セルを使用する一般的な分光光度計
BCA	0.5 ~ 20 µg/ml	1 ~ 2000 µg/ml
Bradford (ブラッドフォード)	125 ~ 1500 µg/ml	10 ~ 100 µg/ml
Lowry (ローリー)	10 ~ 1500 µg/ml	5 ~ 100 µg/ml
Biuret (ビュレット)	1 ~ 15 mg/ml	130 mg/ml まで



ステップ 1

実施する定量メソッドを選択します。各メソッドに対応した英数字キーを押してください。

- BCA での測定 → 2 キー
- Bradford (ブラッドフォード) での測定 → 3 キー
- Lowry (ローリー) での測定 → 4 キー
- Biuret (ビュレット) での測定 → 5 キー

ステップ 2

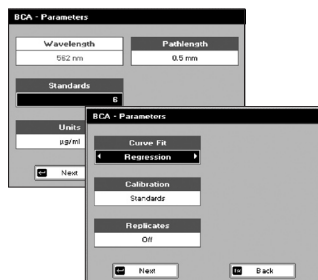
選択した測定法に応じて測定波長が自動設定されます。

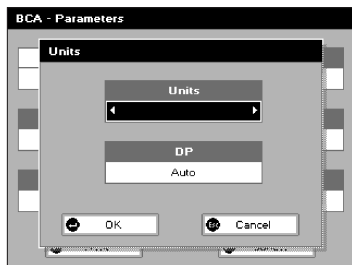
- BCA での測定 → 562 nm
- Bradford (ブラッドフォード) での測定 → 595 nm
- Lowry (ローリー) での測定 → 750 nm
- Biuret (ビュレット) での測定 → 546 nm

ステップ 3

(※ステップ 3 以降の操作は 4 つの手法ともすべて同じです)

キーボードの英数字キーまたは◀▶キーを使って、検量線用のデータ数 (1 ~ 9) を入力します。検量線のデータに濃度 0 の点を含めたい場合には、検量線データ点の総数はそのデータ点も含めた数としてください。入力したら▼キーを押します。





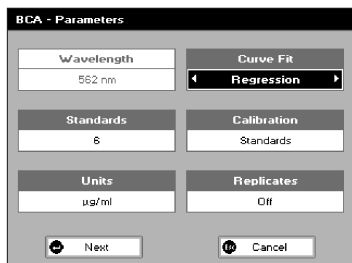
ステップ 4

単位を入力します。8文字まで入力できます。 を押しとあらかじめ登録されている単位のリストが表示されますので、◀▶キーを使って選択してください。

(μg/ml, μg/μl, pmol/μl, mg/dl, mmol/l, μmol/l, g/l, mg/l, μg/l, U/l, %, ppm, ppb, conc, または単位なし)。◀キーを押した後も編集できます。

本画面では、小数点以下の桁数 (DP) も設定できます (範囲は 0 ~ 2 です)。DP の設定値にかかわらず、測定値の有効数字は最大で 5 となりますのでご注意ください (例えば DP を 1 に設定しても 98768.2 は 98768 と表示されます)。

◀キーを押すとパラメーターが保存されます。 を押しとパラメーターは保存されずステップ 3 の画面に戻ります。



ステップ 5

作成する検量線のタイプを入力します。直線回帰 (Regression, チョクセンカイキ)、原点を通る直線回帰 (Zero Regression, ゼロカイキ)、補間 (Interpolation, ホカン)、3 次スプライン (Cubic Spline, サンジスプライン) のうちから選択し、▼キーで決定します。

ステップ 6

キャリブレーションモードを [Standards] と [Manual] から選択します。選択したキャリブレーションモードにより以降の操作が異なります。各モードにおける以降の操作は下記をご参照ください。

- Standards を選択 : 下部 ~ p.23 を参照 (ステップ 7-1 ~ ステップ 15-1)
- Manual を選択 : p.23 ~ p.24 を参照 (ステップ 7-2 ~ ステップ 12-2)

ステップ 6 で Standards を選択した場合

ステップ 7-1

◀▶キーを使って、Replicates (くり返し測定の回数) を選択します。これは各濃度の標準サンプルに対する測定のくり返し回数を意味しており、キャリブレーションにはこれらの平均値が用いられます。Off (1 回)、2 回、3 回のうちから選択します。

ステップ 8-1

◀キーを押すと、Standards 画面へ進みます。

Protein フォルダ画面に戻りたい場合は、 を押してください。

Standards 画面での操作

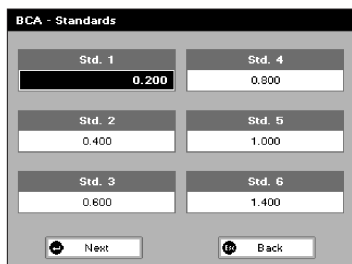
ステップ 9-1

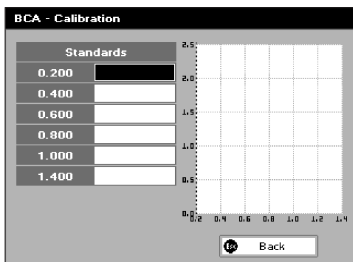
キーボードの英数字キーを使って濃度を入力します。ボックス間の移動には▼▲キーを使います。数値の範囲は 0.001 ~ 9999 です。最後の文字をバックスペースで取り消すには C キーを押します。Std.1 のボックスに最も低い濃度の値を入力し、以下ボックスの番号にしたがって低い濃度から順に数値を入力してください。

ステップ 10-1

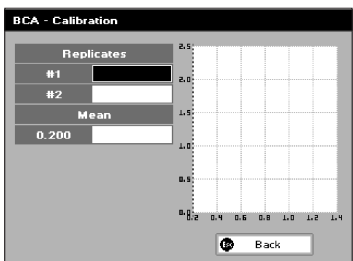
◀キーを押すと、Calibration 画面へ進みます。2 つのボックスに同じ値が入力されている場合や、低い濃度から順に入力されていない場合はアラーム音が鳴り、正しくない箇所が強調表示されます。

Parameters 画面へ戻りたい場合には、 を押してください。

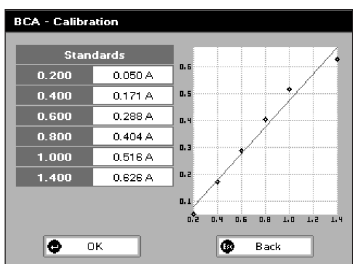




Replicates なしの場合



Replicates ありの場合



Calibration 画面での操作

キャリブレーション結果の表示や、標準サンプルの測定を行います。


ステップ 11-1

リファレンスをセットして、を押します。この値は変更するまで全ての測定に適用されます。


ステップ 12-1


標準サンプルをセットします (以前に保存された結果を消去するには、測定開始前に C キーを押してください)。



を押すと標準サンプルの測定が実行され、結果が保存されます。反復測定を含むすべての標準サンプルについて測定が行われます。測定が完了した時点で、標準サンプルの吸光度表示と検量線がグラフ表示されます。不要な(質の悪い)測定点がある場合は、▲▼キーでその消去したい標準サンプルの測定結果を選択して C キーで消去した後、再測定します。


ステップ 13-1

反復測定を含むすべての標準サンプルの測定が完了すると、OK ボックスが表示されます。を押すとキャリブレーションが完了し、測定結果画面 (以下を参照) に進みます。

を押すと測定結果がキャンセルされ Standards 画面へ戻ります。

【便利な機能】

- タンパク質の定量で検量線を使う方法では、検量線を簡単に作成しなおすことができます。

サンプル測定画面でオプションメニューからパラメーター設定画面に戻ります。パラメーターの変更をせずに  (Next) で検量線測定の画面に行きます。最初に測定した測定値と検量線が表示されているので、変更したいスタンダードの測定値カラムまでカーソルを移動し、C キーで測定値を消去します。この状態でスタンダードの吸光度測定をすると、測定値が新たに入力されて検量線が書き直されます。

BCA	
Wavelength 582 nm	Sample 1
Absorbance 0.288 A	Concentration 0,62
Curve Fit Resregion	Units µg/ul

①	Parameters...
②	Print
③	Graph
⑦	Sample Number...
⑧	Save Method...
⑨	Auto-Print <input checked="" type="checkbox"/>


BCA - Standards	
Std. 1 0.200	Std. 4 0.800
Std. 2 0.400	Std. 5 1.000
Std. 3 0.600	Std. 6 1.400
Next	Back



測定結果画面での操作

ステップ 14-1

リファレンスをセットして、 を押します。この値は変更するまで全ての測定に適用されます。


ステップ 15-1

サンプルをセットして  を押します。サンプルの吸光度が測定され、検量線から求められた濃度が表示されます。すべてのサンプルについてステップ 15-1 をくり返します。

 を押すと Proein フォルダ画面に戻ります。また、 を押すと以下のようなオプションメニューを表示させることができます。

オプションメニュー

(キーパッドの数字キーで選択します)



1. パラメーター設定画面に戻ります (p.16 のステップ 1 実行に相当)。
2. 結果を印刷します。
3. グラフ表示のオン/オフが切り替わります。グラフにはキャリブレーションで測定した標準曲線が表示され、直前に測定したサンプルの値がプロットされています。
7. Sample Number: サンプル番号 (1 ずつ加算されます) の初期値を自由に設定できます。
8. Save Method: 英数字キーでメソッドの名前を入力し、 を押して保存します。
9. Auto-Print: オートプリントのオン/オフが切り替わります。

オプションメニューから戻るには  を押します。


(一定時間なにもせずにいると、自動的に戻ります。)


ステップ 6 で Manual を選択した場合 Standards 画面での操作

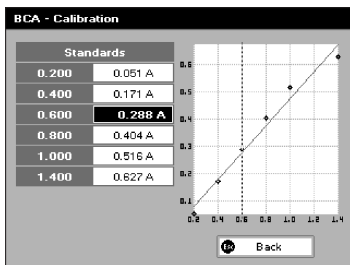
ステップ 7-2

キーパッドの英数字キーを使って濃度を入力します。ボックス間の移動には   キーを使います。数値の範囲は 0.001 ~ 9999 です。最後の文字をバックスペースで取り消すには C キーを押します。

ステップ 8-2

 を押すと、Calibration 画面へ進みます。2 つのボックスに同じ値が入力されている場合や、低い濃度から順に入力されていない場合は、アラーム音が鳴り、誤っている箇所が強調表示されます。

Parameters 画面へ戻る場合には、 を押してください。



Calibration 画面での操作

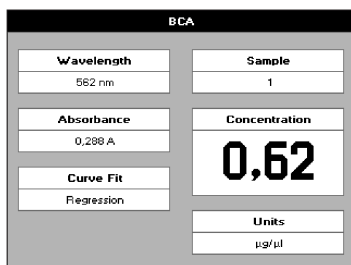
ステップ 9-2

キーボードの英数字キーを使って、所定の濃度に対応する吸光度の値を入力します（強調表示されたボックスに入力できます）。数値の範囲は 0.001 ~ 9999 です。最後の文字をバックスペースで取り消すには C キーを使い、ボックス間の移動には ▲▼ キーを使います。

ステップ 10-2

← を押すとキャリブレーションが完了し、測定結果画面（以下を参照）に進みます。

Esc を押すと Standards 画面へ戻ります。



測定結果画面での操作

ステップ 11-2

リファレンスをセットして、DA 100%T を押します。この値は変更するまで全ての測定に適用されます。

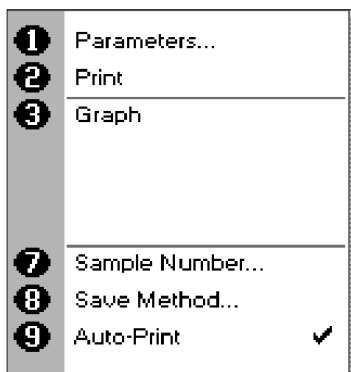
ステップ 12-2

サンプルをセットして + を押します。

サンプルの吸光度が測定され、検量線から求められた濃度が表示されます。

すべてのサンプルについてステップ 12-2 を繰り返します。

Esc を押すと Protein フォルダ画面に戻ります。また、 を押すと以下のようなオプションメニューを表示させることができます。



オプションメニュー

（キーボードの英数字キーで選択します）

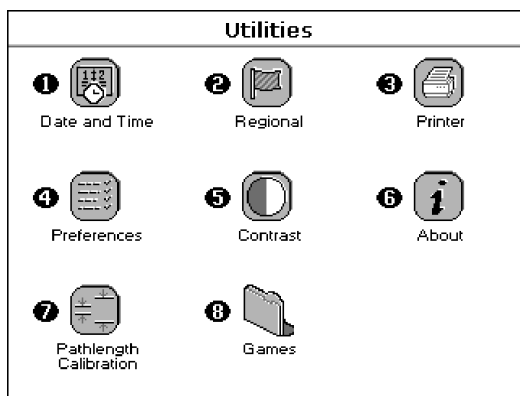
1. パラメーター設定画面に戻ります（p.20 のステップ 1 実行に相当）。
2. 結果を印刷します。
3. グラフ表示のオン/オフが切り替わります。グラフにはキャリブレーションで測定した標準曲線が表示され、直前に測定したサンプルの値がプロットされています。
7. Sample Number: サンプル番号（1 ずつ加算されます）の初期値を自由に設定できます。
8. Save Method: 英数字キーでメソッドの名前を入力し、← を押して保存します。
9. Auto-Print: オートプリントのオン/オフが切り替わります。

オプションメニューから戻るには Esc を押します。

（一定時間なにもせずにいると、自動的に戻ります。）

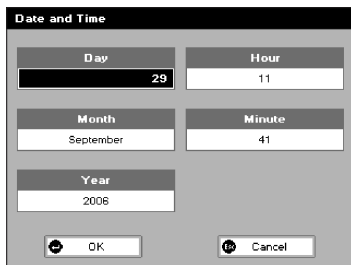
4. Utilities フォルダ

5 キーを押すと Utilities フォルダが開きます。



概要

機能	キーボード番号	機能の内容
 Date and Time	1	時刻および日付の設定
 Regional	2	言語および数字のフォーマットの選択
 Printer	3	プリンター/出力のオプション
 Preferences	4	画面の表示項目や初期設定の選択
 Contrast	5	画面のコントラストおよび明るさの調整
 About	6	シリアルナンバーおよびソフトウェアのバージョン情報を表示
 Pathlength	7	光路長較正
 Games	8	ゲーム (画面表示する設定が選択されている場合のみ)



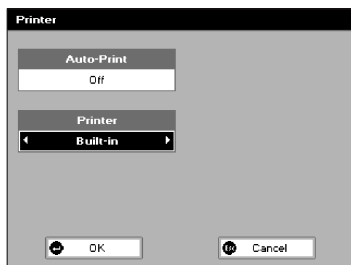
4-1：時刻および日付の設定

- Day (日付)、Month (月)、Year (年)、Hour (時)、Minute (分)の順に入力します。キーボードの英数字キーまたは◀▶キーを使ってボックスに入力し、▼キーで決定します。
- ◀を押すと設定が保存され Utilities フォルダ画面に戻ります。すべての入力設定をキャンセルしたい場合には、Esc を押します。



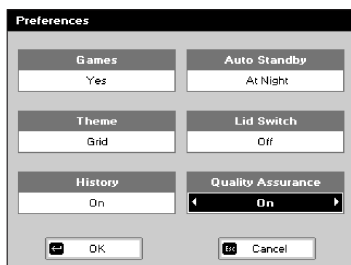
4-2：言語および数字のフォーマットの選択

- 言語を選択します。日本語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語のうちから選択し、▼キーで決定します。
- 小数点のスタイルを設定します。「,」と「.」のどちらかを選択し、▼キーで決定します。
- ◀を押すと設定が保存され Utilities フォルダ画面に戻ります。すべての入力設定をキャンセルしたい場合には、Esc を押します。



4-3：プリンター／出力のオプション


- オートプリントの設定をします。デフォルトはオフに設定されています。▲▼キーを使ってオン/オフを選択し、▼キーで決定します。
※オートプリントがオンの設定では、測定が実行されると結果が自動的にプリントアウトされます。オフの設定からプリントアウトする場合は、測定画面のオプションファイルメニューから手動で行います。この設定の切替えは各アプリケーションまたはメソッド画面のオプション [] から行うこともできます。
- データの出力方法を選択します。Built in (内蔵プリンター)、あるいはUSBポート・Bluetoothによるパソコンへの出力から選択できます。
- ◀を押すと設定が保存され Utilities フォルダ画面に戻ります。すべての入力設定をキャンセルしたい場合には、Esc を押します。

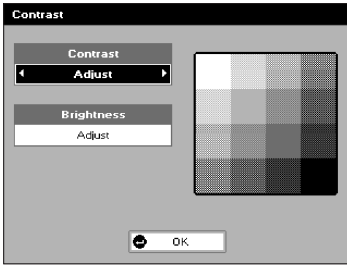


4-4：画面の表示項目や初期設定の選択


- Games:** ゲーム機能の使用の有無を選択します。Games フォルダの表示を Yes / No から選択し、▼キーで決定します。
- Theme:** フォルダ表示のレイアウトを指定します。格子配列 (デフォルト) カリスト形式かのどちらかを選択し、▼キーで決定します。
- History:** 装置起動時のパラメーター設定を選択します。前回の測定パラメーター値がデフォルト値のどちらかを選択し、▼キーで決定します。
- Auto Standby:** 省エネモードの選択をします。この設定では一定時間装置を使用せずにおいた場合、自動的に節電するスタンバイモードになるまでの時間を選択します。1時間後、2時間後、夜間、あるいはオフのうちから選択し、▼キーで決定します。
- Auto-Print:** 測定と同時に印刷するためには、Auto-Print をオン(On)にします。

- **Quality Assurance:** リファレンス測定を2度行うようにするには、Quality Assurance をオン (On) にします。これによりリファレンスデータの信頼度が上がります。

-  を押すと設定が保存され Utilities フォルダ画面に戻ります。
すべての入力設定をキャンセルしたい場合には、**Esc** を押します。



4-5: 画面のコントラストおよび明るさの調整

- コントラストを調整します。◀▶キーを使って調整し▼キーで決定します。
- 明るさを調整します。◀▶キーを使って調整し▼キーで決定します。
-  を押すと設定が保存され Utilities フォルダ画面に戻ります。



4-6: シリアル番号およびソフトウェアのバージョン情報

- お手持ちの装置のシリアル番号およびソフトウェアのバージョン情報を確認できます。

-  を押すとウィンドウが閉じ、Utilities フォルダ画面に戻ります。

4-7 : NanoVue 光路長のキャリブレーション

サンプルプレートを交換した場合や半年に 1 回の割合で光路長のキャリブレーションをお奨めします。

使用するもの : NanoVue Calibration Fluid (コード番号 28-9244-05)

ステップ 1

Utility フォルダを画面表示し、キーパットの 7 番を押して Pathlength Calibration を選択します。

ステップ 2

Certificate ID のボックスに NanoVue Calibration Fluid のボトルに印刷されているロット番号を入力します。

ステップ 3

◀▶▲▼キーで移動して、Calibration Value のボックスに NanoVue Calibration Fluid のボトルに印刷されている Cal 番号を入力します。

ステップ 4

← (OK) を押して次の画面に移動します。

ステップ 5

本体のサンプルヘッドを上げて、滅菌水 5 μ l をサンプルプレートにアプライします。サンプルヘッドを下げて **OK** を押し、リファレンス測定を開始します。リファレンス測定は 2 度実行されます。1 回目の測定が終わると 2 回目のリファレンス測定を促す表示が画面表示されますので、サンプルヘッドを上げてサンプルプレートの上下をキムワイプでよく拭き取り、再度滅菌水をアプライします。サンプルヘッドを下げて **OK** を押し、二度目のリファレンス測定を行います。二度の測定結果に矛盾が無ければ次のキャリブレーションに進みます。

ステップ 6

サンプルヘッドを上げてサンプルプレートの上下をキムワイプでよく拭き取ります。NanoVue Calibration Fluid ボトルをよく振り、キャップを外してサンプルプレートに 1 滴試薬をアプライします。サンプルヘッドを下げて **OK** を押します。カーソルのある行に結果が記録されていきます。測定結果のバラツキが 2% 以内であれば Status に OK の表示がされます。OK 以外の表示だった場合には、その行にカーソルを合わせてクリア (C) キーを押します。データが削除されますので再び測定を行います。

ステップ 7

測定を 10 回終え、キャリブレーションの結果に問題が無ければ **OK** を押します。データ上書き確認の画面が表示されますので再度 **OK** を押します。 **Esc** を押すと上書きされずに終了し、Utility の画面に戻ります。

ステップ 8

← を押すと 0.5mm と 0.2mm の光路長での実測値、10 回測定した平均値と標準偏差が表示されます。オプションメニューで印刷 / 出力させることもできます。光路長の実測値が 0.5mm で ± 0.05 mm 以内、0.2mm で ± 0.02 mm 以内ならば測定値の正確性として問題ありません。また、標準偏差が 2.0% 以内ならば測定値の再現性として問題ありません。 **Esc** を押すと Utility 画面に戻ります。

Pathlength Calibration - Parameters

Certificate ID

Calibration value

0.000

OK Cancel

Pathlength Calibration - Calibration

	0.5 mm	0.2 mm	Status
1	0.487 A	0.199 A	OK
2	0.495 A	0.194 A	OK
3	0.497 A	0.194 A	OK
4	0.495 A	0.192 A	OK
5	0.490 A	0.193 A	OK
6	0.488 A	0.195 A	OK
7	0.492 A	0.199 A	OK
8	0.481 A	0.195 A	OK
9	0.481 A	0.196 A	OK
10	0.494 A	0.194 A	OK

OK Back

Pathlength Calibration

Certificate ID

Pathlength Calibration data has been successfully updated.

OK

SD 0.9% SD 0.9%

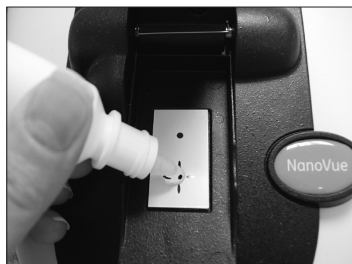
Pathlength Calibration

Certificate ID

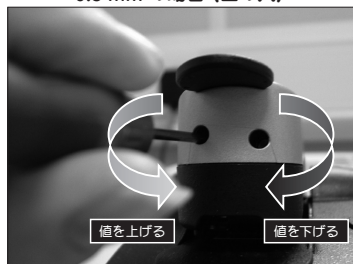
PMD3

0.5 mm Path	0.2 mm Path
0.502	0.199
Mean 0.491	Mean 0.195
SD 0.9%	SD 1.1%

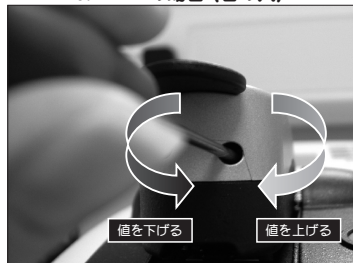
5. メンテナンス



0.5 mm の場合 (左の穴)




0.2 mm の場合 (右の穴)



4-1: 光路長の調整方法

Pathlength Calibration でキャリブレーション値が許容範囲外となり、エラーメッセージを表示した場合や NanoVue Calibration Fluid の Calibration Value と実測値との間に大きな開きがある場合などに行います。

ステップ 1

NanoVue の初期画面を表示した状態で  を二回、[C] キーを一回連続して押します。画面に「Path factor disabled」の表示が出ます。


ステップ 2

Applications (2) フォルダの Single Wavelength (1) を選択し、波長 259nm と光路長 0.5mm を選択します。


ステップ 3

滅菌水でリファレンスをとり、NanoVue Calibration Fluid でサンプル測定します。測定値が Calibration Value の $1/2 \pm 0.020$ の範囲内であればステップ 5へ進みます。


ステップ 4

サンプルヘッドを下げた状態で、向かって左側の穴にマイナスドライバーを差し込み、0.5mm の高さ調整のピンを調節します。時計回りに回すとピンが引っ込み光路長が小さくなり、反時計回りに回すとピンが飛び出し光路長が大きくなります。ドライバーを 1 回転すると約 0.07mm 変わります。サンプルヘッドをそっと下げて  を押します。測定値が Calibration Value の $1/2 \pm 0.020$ の範囲内であれば次のステップへ進み、そうでなければ再度ドライバーで調整します。



ステップ 5

一度  を押してモードから出ます。もう一度 Single Wavelength(1) を選択し、波長 259nm と光路長 0.2mm を選択します。

ステップ 6

サンプルヘッドを下げた状態で、向かって右側の穴にマイナスドライバーを差し込み、0.2mm の高さ調整のピンを調節します。時計回りに回すとピンが飛び出し光路長が大きくなり、反時計回りに回すとピンが引っ込み光路長が小さくなります。ドライバーを 1 回転すると約 0.07mm 変わります。サンプルヘッドをそっと下げて  を押します。測定値が Calibration Value の $1/5 \pm 0.015$ の範囲内であれば次へ進み、そうでなければ再度ドライバーで調整します。

ステップ 7

 を二度押します。初期画面に戻ります。 を二回、[C] キーを一回連続して押します。画面から「Path factor disabled」の表示が消え、初期画面に戻ります。(この操作は必ず実行してください。)

ステップ 8

光路長のキャリブレーションを実行し、値が適正範囲内であることを確認します。

ステップ 9

核酸測定モードで実際にサンプル測定して状態が正常かどうか最終確認します。

4-2：サンプルプレートの交換

丁寧にクリーニングしても水滴の形が整わないときや、どちらかのプレートが損傷したり、疎水性コーティングが劣化した場合、サンプルプレートをペアで交換する必要があります。ガラスプレートはサンプルハンドリングモジュールを挟み込んでいるプラスチックハウジング内に固定されています。サンプルプレートの交換は、弊社リペアセンターまたは弊社認定のトレーニングを受けた代理店担当者にて承っております。

ステップ1

上部サンプルプレートを外します。親指をサンプルプレートの底の部分に置き、人差し指でプレートの上側のつまみを穏やかに押し下げます。

ステップ2

上部サンプルプレートを交換します。底部のつまみを差し込み、親指で適切な位置に保ちます。そして、プレートが正しい位置に収まるまで上から押します。正しい位置に収まると、上部センサーの両サイドに銀色のピンが二本見えます。

ステップ3

下部サンプルプレートを交換します。親指の爪を使ってプレートの前の部分をてこのように持ち上げ、自分の方向に引いて完全に外します。

ステップ4

下部サンプルプレートを外します。プレートの裏側のつまみを可能な限り差し込みます。サンプルプレートの前側を押し下げることで、つまみが完全に差し込まれるようにします。

ステップ5

システムのキャリブレーションを行います。

4-3：ランプの交換

キセノンランプは数年に一度交換します。交換の必要が生じた場合は、弊社サービスエンジニアにご用命ください。

4-4：プリンター用紙の交換

ステップ1

測定画面から抜け、プリンターの電源はオンにしたまま用紙カバーを外します。

注) 必ず測定画面から抜け、電源をオンにした状態で交換を行ってください。この方法で行わないと機器が誤動作する可能性があります。

ステップ2

ローラーを水平に固定し、用紙の端をスロットに差し入れます。用紙が自動的に送られます。

この方法で上手くいかない場合は、平らな緑色のつまみを時計回りに回してローラーのロックを外し、緑色のノブを手動で回します。

ステップ3

カバーを元の位置に戻します。

・プリンター用紙

製品名	包装	コード番号
Spere Printer Paper	20 rolls	28-9182-26

お願い【インストール前にお読みください】

1. データ転送プログラムソフト PRINT VIA COMPUTER のインストール

PRINT VIA COMPUTER のインストール方法はバージョンにより異なります。

該当するバージョンのインストールページをご覧ください。

- PVC5.2.2.2 (英文マニュアル v1.5) の場合 … 32 ～ 33 ページ
- PVC5.1.0.1 (英文マニュアル v1.4) の場合 … 34 ～ 35 ページ
- 上記以前の PVC (英文マニュアル v1.0 または 1.1) の場合 … 36 ページ

バージョンの確認は、CD-ROM のラベル、英文マニュアル、英文マニュアルの PDF ファイル名などを
ご覧ください。バージョンが該当しない場合は、大変恐れ入りますが弊社 [バイオダイレクトライン](#)
(TEL: 03-5331-9336) までお問合せください。

2. 最新情報

分光光度計本体及び付属アクセサリ類、プログラムソフトについての最新情報は製品に付属の CD-ROM にドキュメント (PDF ファイル) としてありますのでご確認ください。本体及び関連のプログラムソフトウェアの仕様、取扱い方法は予告無く変更される場合がありますので、ご了承ください。日本語簡易マニュアルの内容で不足の製品情報は、CD-ROM にある最新情報で確認ください。

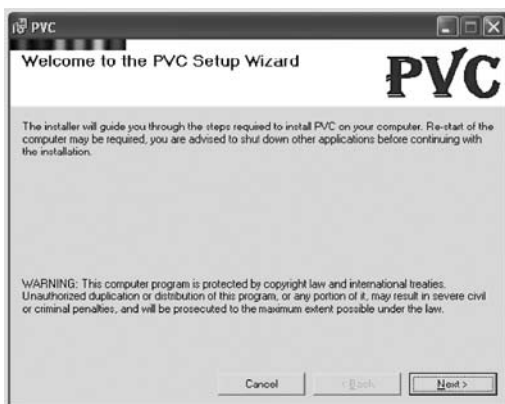
GE ヘルスケアバイオサイエンス株式会社

バイオダイレクトライン (学術問合せ)

TEL:03-5331-9336 FAX:03-5331-9370

E-mail:Tech-JP@ge.com

PVC 5.2.2.2. (E) (英文マニュアル v1.5) インストール簡易マニュアル (USB ケーブルによる接続)



【ご注意】

- USB ケーブル接続でデータ転送する場合は、USB ポート ver2.0 のスペックを満たす必要があります。満たしていない場合、通信速度が遅く、データ転送に不具合を生じる場合があります。
- コンピュータの OS には英語版 Windows2000、英語版 Windows XP sp2 の使用を推奨します。日本語 OS での動作保証はしておりません。
- プログラムソフトのインストールにあたっては、Administrator 権限でコンピューターにログオンしてください。プログラムソフトの保存、削除に制限がある User / Guest でログオンした状態でプログラムをインストールした場合、正常にインストールが進まず、動作に不具合を生じる原因になります。
- プログラムソフトをインストールするまでは分光光度計本体とコンピューターとを接続しないでください。正常に動作しません。
- もしも古いPVCソフトをインストールしたことがあるコンピューターにインストールする場合は、PCのプログラムの追加・削除] マネージャーを利用して、次のプログラムソフトを削除してからインストールしてください。(インストールに失敗してやり直す場合も同じです。)

FTDI USB Serial Converter Drivers
PVC

【インストール方法】

- この操作では、まず CD-ROM からセットアッププログラムを起動し、
Microsoft.NET Framework (PC のシステム内容によって自動的に選択)
PVC Software
FTDI USB Serial Converter Drivers
USB Serial Port

をインストールします。この後、電源を入れた分光光度計本体とコンピューターとを USB ケーブルで接続し、USB ドライバーを PC に認識させて、作業が終了します。

【インストール手順】

1. CD-ROM を PC に挿入し、中の PVC ホルダーを開きます。
2. フォルダの中にある setup.exe ファイルをダブルクリックして実行します。(自動実行あり)
3. ReadMe ドキュメントを表示 / 印刷して、プログラムソフトの最新情報を確認できます。
4. USB ドライバのインストールとデスクトップにショートカットの作成を選択できます。
5. PVC Software を保存する場所を選択します。デフォルトで C:\Program Files\PVC\ が選択されています。問題なければ Next ボタンをクリックして先に進みます。インストール開始確認画面でインストール開始を実行します。
6. USB ドライバのインストールを選択している場合には、プログラムソフトのインストール終了後に USB ドライバのインストール確認画面が表示されます。確認ボタンをクリックして先に進みます。USB ドライバのインストールが不要の場合は 6 の操作を無視して先に進みます。
7. 全てのプログラム、ドライバのインストールが終了すると「Installation Complete」の表示がでますので、確認して Close ボタンをクリックします。
8. PC と本体とを付属の USB ケーブルで接続し、PC 及び本体の電源を入れます。PC が起動すると自動的に「新しいハードウェアを検出しました」というメッセージ表示とともに「新しいハードウェア追加」ウィザードが起動します。
9. 最初に USB to Serial Converter (USB <-> Serial) インストールの表示が出ます。ウィザードの実行選択では、「ソフトウェアを検索して自動的にインストールする」を選んで実行してください。(インストールには数分かかる場合があります。インストールが正常に終了したという画面表示されるまでお待ちください。)
10. 次に再び「新しいハードウェア追加」ウィザードが自動的に起動し、USB Serial Port インストールの表示が出ます。9 と同様にして進んでください。
11. 正常にインストールが進んだ場合、PC のデスクトップに作成された PVC ショートカットまたはスタートボタンのプログラムメニューに追加された PVC アイコンを選択して、プログラムを実行してください。本体と接続していれば PVC Application 画面に本体、シリアル番号、接続状況が一覧で表示されます。
12. PVC Application の file メニュー > Setup から、Com Port と Printer の選択ができます。また、Tools メニューから、本体接続の検索実行と検索停止を実行することができます。
13. PVC Application の画面表示にある Option のアイコンをダブルクリックすると、接続している本体ごと、データ表示 / 転送 / 印刷のオプション選択ができます。データの保存先や保存するデータ形式を変更することもできます。(コンピュータに Microsoft Excel™、Microsoft Word™ がインストールされていないとサポートされないデータ形式もあります。)
14. 使用方法については、本マニュアル 37 ページの【PVC 使用方法】をご覧ください。

PVC 5.1.0.1. (E) (英文マニュアル v1.4) インストール簡易マニュアル (USB ケーブルによる接続)



【ご注意】

- USB ケーブル接続でデータ転送する場合は、USB ポート ver2.0 のスペックを満たす必要があります。満たしていない場合、通信速度が遅く、データ転送に不具合を生じる場合があります。
- コンピュータの OS には英語版 Windows2000、英語版 Windows XP sp2 の使用を推奨します。日本語 OS での動作保証はしてありません。
- プログラムソフトのインストールにあたっては、Administrator 権限でコンピューターにログオンしてください。プログラムソフトの保存、削除に制限がある User / Guest でログオンした状態でプログラムをインストールした場合、正常にインストールが進まず、動作に不具合を生じる原因になります。
- プログラムソフトをインストールするまでは分光光度計本体とコンピューターとを接続しないでください。正常に動作しません。
- もしも古い PVC ソフトをインストールしたことがあるコンピューターにインストールする場合は、PC の「プログラムの追加・削除」マネージャーを利用して、次のプログラムソフトを削除してからインストールしてください。(インストールに失敗してやり直す場合も同じです。)

FTDI USB Serial Converter Drivers
PVC

【インストール方法】

- この操作では、まず CD-ROM からセットアッププログラムを起動し、
Microsoft.NET Framework (PC のシステム内容によって自動的に選択)
PVC Software
をインストールします。次にハードディスクに保存された USB ドライバーのセットアッププログラムを起動し、
FTDI USB Serial Converter Drivers
USB Serial Port
をインストールします。この後、電源を入れた分光光度計本体とコンピューターとを USB ケーブルで接続し、USB ドライバーを PC に認識させて、作業が終了します。

【インストール手順】

1. CD-ROM を PC に挿入し、中の PVC ホルダーを開きます。
2. フォルダの中にある setup.exe ファイルをダブルクリックして実行します。
3. PC のシステム内容によって、最初に Microsoft.Net Framework ファイルがインストールされます。表示されるライセンス条文中に同意して先に進んでください。(インストールには数分かかる場合があります。この項目が省略されて4に進む場合もあります。)
4. PVC Software を保存する場所を選択します。デフォルトで C:\Program Files\PVC\ が選択されています。問題なければ Next ボタンをクリックして先に進みます。インストール開始確認画面でインストール開始を実行します。(インストールには数分かかる場合があります。インストールが正常に終了したという画面表示されるまでお待ちください。)
5. PC と本体とを付属の USB ケーブルで接続し、PC 及び本体の電源を入れます。PC が起動すると自動的に「新しいハードウェアを検出しました」というメッセージ表示とともに「新しいハードウェア追加」ウィザードが起動します。
6. 最初に USB to Serial Converter (USB <-> Serial) インストールの表示が出ます。ウィザードの実行選択では、「ソフトウェアを検索して自動的にインストールする」を選んで実行してください。(インストールには数分かかる場合があります。インストールが正常に終了したという画面表示されるまでお待ちください。)
7. 次に再び「新しいハードウェア追加」ウィザードが自動的に起動し、USB Serial Port インストールの表示が出ます。6 と同様にして進んでください。
8. 正常にインストールが進んだ場合、PC のデスクトップに作成された PVC ショートカットまたはスタートボタンのプログラムメニューに追加された PVC アイコンを選択して、プログラムを実行してください。本体と接続していれば PVC Application 画面に本体、シリアル番号、接続状況が一覧で表示されます。
9. PVC Application の file メニュー > Setup から、Com Port と Printer の選択ができます。また、Tools メニューから、本体接続の検索実行と検索停止を実行することができます。
10. PVC Application の画面表示にある Option のアイコンをダブルクリックすると、接続している本体ごと、データ表示 / 転送 / 印刷のオプション選択ができます。データの保存先や保存するデータ形式を変更することもできます。(コンピューターに Microsoft Excel™, Microsoft Word™ がインストールされていないとサポートされないデータ形式もあります。)
11. 使用方法については、本マニュアル 37 ページの【PVC 使用方法】をご覧ください。

Print Via Computer (PVC) (英文マニュアル v1.0 または v1.1) インストール簡易マニュアル

プログラムソフト Print Via Computer (PVC) は、NanoVue から分光測定データをパーソナルコンピュータ (PC) にデータ転送したり、PC に接続されているプリンターにデータを印刷するためのソフトウェアです。データ転送のための PVC ソフトと、PC に保存したデータを表示、印刷するための PVC Viewer ソフトの二つから構成されています。

PVC の二つのソフトは、PC の OS が英語版 Windows 2000™ および英語版 Windows XP™ であるか、これらと互換性がある OS である場合に使用することができます。




【インストール方法】

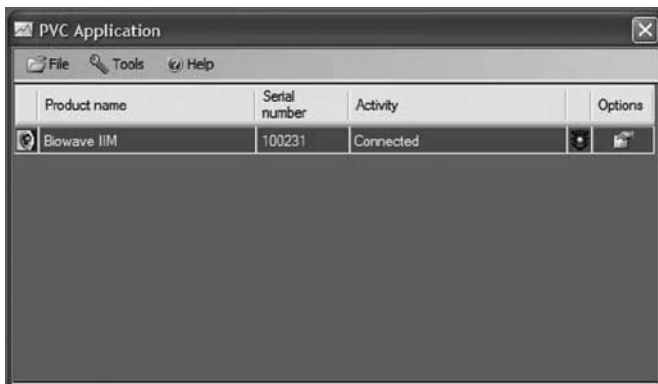
1. PC 単独の状態、プログラムインストール用の CD-ROM を PC のドライバーにセットします。
重要) PC と NanoVue 本体とは絶対にケーブルで接続しない状態で行ってください。
2. 多くの場合、CD-ROM のインストールプログラムが自動的に起動し、データ転送に必要なプログラムをインストールします。インストールされるプログラムの内容はお使いの PC によって若干異なります。
3. インストールに要する時間はお使いの PC によって異なり、数分から 10 分程度の幅で変わります。
4. 確認画面で数回ポーズしますが、OK / Yes / ◀▶▲▼キーで先に進んでください。場合によっては再起動を促す画面が表示されますので、その場合は指示に従って PC を再起動してください。
5. インストールが終了した画面が表示されたならば、PC の再起動をお奨めします。
6. 電源をいれた NanoVue 本体とプログラムをインストールした PC を USB ケーブルで接続します。
7. お使いの PC によっては、” The Found New Hardware Wizard” というセットアッププログラムが自動的に起動する場合があります。その場合には、PVC 英文マニュアルの 6 ~ 7 ページを参照して操作してください。
8. データ通信に必要なドライバーファイルが見つかり、PC と NanoVue 本体とが問題なく接続した場合には、PC 画面右下隅に「新しいハードウェアが見つかりました (Found New Hardware)」というメッセージが短い時間表示されます。うまく接続されなかった場合には、PVC 英文マニュアルの 8 ページを参照してトラブルシュートしてください。

【PVC 使用方法】

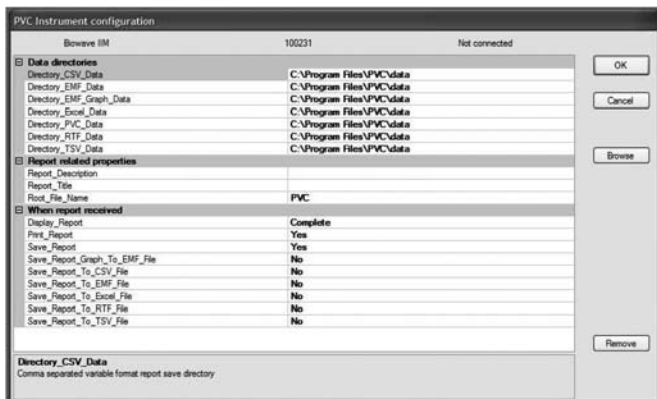
【注意】

PC へのデータ転送および結果の印刷を行う際には、本体の表示モードを英語に設定することを推奨いたします。表示モードが日本語であると、データ転送が正常にできない場合や印刷時に文字化けが起こる場合があります。

1. NanoVue 本体の Utilities フォルダにある プリンターメニュー から、Auto-Print(オートプリント) をオン、Printer (プリンター) を USB に選択します。
2. PC の PVC を起動します。
3. PVC を初めて起動したときには COM ポートの検索画面が自動的に起動します。この時、左側のボックスにある COM ポートの候補リスト全てを右側の (空の) ボックスに移動し、 を押してください。
4. PVC が起動すると、自動的に PC と NanoVue 本体の接続状況が画面表示されます (画面 1)。Connected の表示であれば問題ありません。画面を最小にしている場合は、PC 画面右下に PVC のアイコンが表示され、そこに現在のステータスが表示されます。接続している場合には Running が表示されます。
5. うまく接続しなかった場合には、PVC 英文マニュアルの 16 ~ 18 ページの Setup を参照して設定してください。
6. PVC の画面 (画面 1) で option のアイコンをクリックすると、データファイルの保存先、ファイル保存/印刷のオン/オフや保存するファイルのフォーマット選択画面が表示されます (画面 2)。PVC 英文マニュアルの 19~20 ページを参照して設定してください。
7. アプリケーションによって PC へデータ転送されるタイミングが異なります。 を押すたびに測定データが PC へ転送されるアプリケーション (Wave Scan) と、アプリケーションが終了するまで NanoVue 本体にデータが保存され、 を押してアプリケーションを終了すると同時に PC へ転送されるアプリケーションがあります。
8. 各アプリケーションの測定画面でオプションメニューを呼び出し print を実行すると、アプリケーションを終了せずにデータ転送を行えます。(一部行えないアプリケーションもあります。)
9. PC にデータ転送されたデータは、PVC のファイル設定 (メイン画面の右隅に表示されているアイコンをクリックして呼び出し可能) で設定された PC のディレクトリーに、設定されたデータフォーマットで保存されます。印刷が選択されている場合には PC と接続されている、通常使うプリンターに選択されたプリンターで印刷されます。プリンターの選択は file メニューの Setup から変更することが可能です。
10. 保存したデータは、PVC Viewer で呼び出すか、データフォーマットをサポートしているプログラムで表示/編集することが可能です。



画面 1



画面 2

安全上のご注意

誤った取扱いをした場合に生じる危険や損害の程度を、次の区分で説明しています。

必ずお守りください

このしおりには、弊社機器に関する一般的な注意事項を記載しています。取扱いの詳細は必ず製品添付の使用説明書をご覧ください。

図記号の意味は次の通りです。



警告

誤った取扱いをした場合に、死亡や重傷を負う可能性があるもの。



注意

誤った取扱いをした場合に、傷害または物的損害が発生する可能性があるもの。



警告



禁止

電源プラグの抜き差しにより、運転を停止しない

火災・感電の原因になります。



禁止

電源コードを途中で接続しない、タコ足配線をしてはいけない

火災・感電・故障の原因になります。



禁止

電源コード・電源プラグを傷つけない

- 加工しない
- 折らない
- 無理に曲げない
- 束ねない
- 物をのせない
- ねじらない
- 加熱しない

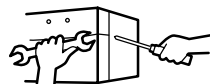
破損して火災・感電の原因になります。



禁止

修理・分解・改造はしない

火災・感電の原因になります。



根元まで差込む

電源プラグのほこりを取り除き、刃の根元まで確実に差込む

接続が不十分だと、隙間にほこりが付着して火災・感電の原因になります。



指定の規格

取扱い説明書に指定された規格のコンセントを使用する

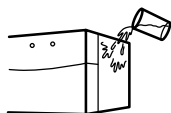
指定された規格以外で使用すると火災・感電の原因になります。



禁止

本体を水につけたり、水をかけたりしない

ショート・感電の原因になります。



禁止

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない

感電・ショート・発火の原因になります。



禁止

使用時や使用直後（運転停止後約60分間）は、操作に関係のない部位には触れない

高温部に触れ、やけどの原因になります。



プラグを抜く

異常時は、運転を停止して電源プラグを抜く

異常のまま運転を続けると火災・感電の原因になります。



禁止

同相の電源コード・電源プラグ以外のコード・プラグを使用しない

故障・火災・感電の原因になります。



禁止

同相の電源コード・電源プラグを他の電気機器に使用しない

故障・火災・感電の原因になります。

⚠ 注意



禁止

設置時は、次のような場所には置かない

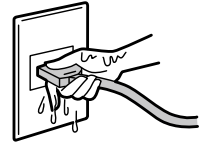
- 不安定な場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 油煙や湯気が当たる場所
- 直射日光の当たる場所
- 風雨のあたる場所
- 熱器具の近く
- 高温になる場所
- 吸・排気口をふさぐような場所

このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶けるなどして、火災や感電、故障、変形の原因になることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



禁止

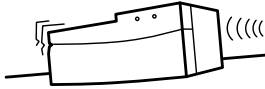


感電の原因になります。



水平

水平で丈夫な場所に設置する



プラグを持つ

電源プラグを持ってまっすぐ引き抜く

ななめに引き抜いたり、コードを持って抜くと、プラグの刃や芯線が破損してショート・感電・発火の原因になります。

⚠ 低温室で使用する場合の注意



電源を入れておく

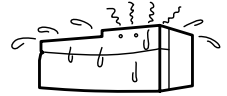
装置を低温環境下でご使用になる場合、システム電源は常時入れておく

低温環境下で長時間システムの電源を落とした状態で放置すると、結露などにより故障の原因になります。ランプなどの消耗品は OFF にしておくと、劣化を防ぐことができます。



電源を入れない

装置を低温室から常温の場所に移動させる場合、常温に設置後、装置内の結露が無くなるまでシステム電源を入れない（状況により異なるが、通常半日から一昼夜）



感電・漏電火災の原因になります。

弊社製品についてのお問合せ (バイオダイレクトライン)

TEL : 03-5331-9336

受付時間 9:00 ~ 17:30

土・日・祝日、弊社指定休業日、年末年始を除く

■機器メンテナンス・保守契約・修理のお問合せ

● 東日本技術サービス部

TEL : 03-5331-9315

FAX : 03-5331-9349

● 西日本技術サービス部

TEL : 06-6305-4707

FAX : 06-6305-3599

■テクニカルのお問合せ (バイオダイレクトライン)

● TEL : 03-5331-9336

応答メッセージが聞こえましたら、下記の番号を押してください。

- ① クロマトグラフィー関連製品 :
- ② ピアコア関連製品 :
- ③ イメージャー・電気泳動関連製品 :
- ④ その他製品 : ← NanoVue はこちら

● FAX : 03-5331-9370

● e-mail : Tech-JP@ge.com

※ アナログ回線等で番号選択ができない場合はそのままお待ちください。
オペレーターにつながります。

©2010 GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 本書の全部または一部を無断で複製することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。掲載されている製品は試験研究用以外には使用しないでください。掲載されている内容は予告なく変更される場合がありますのであらかじめご了承ください。掲載されている社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。掲載されている製品は試験研究用以外には使用しないでください。

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

ライフサイエンス統括本部

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-25-1 サンケンビルヂング

お問合せ : バイオダイレクトライン

TEL : 03-5331-9336 FAX : 03-5331-9370

e-mail : Tech-JP@ge.com



ISO 9001:2000認証取得